

☆研究ノート(ロシア社会)

＊ウラジオストクにおける職業威信スコアの変化について（2000～2004 年）

拙論文「ウラジオストクの職業威信と社会変動——2000 年 2004 年時系列比較分析の結果から」『神戸国際大学紀要』第 77 号, 2009 年, 15-29 より

筆者はウラジオストクにある極東連邦大学（旧極東国立大学）の東洋学院にて、職業威信の調査を実施させていただいた。2000 年は修士課程 2 年のときに自費で実施し、2004 年は松下国際財団から研究助成をいただいて実施した。一院生ができる範囲で質問紙調査を実施したとしても、規模やサンプルに問題があるところだが、ロシアでは当時職業威信にかんする調査が実施されていなかったこと、また職業威信スコアは評定者の社会的属性の相違を超えて頑強な性質をもっていること（直井・鈴木 1977、Hara2000）などから、実施する意義があると考えた。

結果では、4 年という短いスパンとはいえ、職業威信スコアの頑強性が確認された（相関係数 $\gamma=0.99$ ）。しかしながら、全体的に職業威信スコアは低下し、特に下記の 3 分野の職業は大幅に職業威信スコアを低下させた。第 1 には、ゆすり屋（恐喝などを行う暴力団のことを示すが、ソ連崩壊直後のロシアでは徴税や市民や企業の安全確保までも国家に代わって行う存在であった）、警備員といった私的安全保障を担っている分野や、個人の権利を守るための訴訟を扱う弁護士である。第 2 には、通訳ガイド、外資系企業支社長、個人輸入業者といった外国と関連する分野である。第 3 には、消費者サービス関連の分野で、マクドナルド店員、ウェイター・ウェイトレス、商店の店員などが含まれている。これらの職業は 2000 年に開始したプーチン政権化での秩序の形成、ロシア経済の高い成長率による海外資本の魅力の低下、消費者サービス分野の広がりなどが影響していると考えられる。

参考文献

直井優・鈴木達三（1977）「職業の社会的評価の分析——職業威信スコアの検討」『現代社会学 8』第 4 巻第 2 号, 講談社, 115-156.

Hara, J. (2000) "Changes in the Labor Market and Occupational Prestige Scores", *International Journal of Sociology*, 9, 21-33.